



カンボジアの子どもたちに教科書を

2011年12月 No. 39

カンボジア便り

識字学校で、みんな熱心に学んでいます

学校No.9の識字学校では、生徒を上級と初級のクラスに分けて、順調に授業が進められています。まだ学校が始まって間もないものの、上級クラスは小学校2年生の教科書を終えて、3年生の教科書に取り掛かっています。初級クラスも1年生の教科書を終えようとしています。

前回までのニュースレターでお伝えしたとおり、貧しいため公立学校には行かせられないものの、子どもにせめて読み書きは覚えさせてやりたいという気持ちから子ども以上に親の反響が大きく、生徒数も多く活発に学校が運営されています。

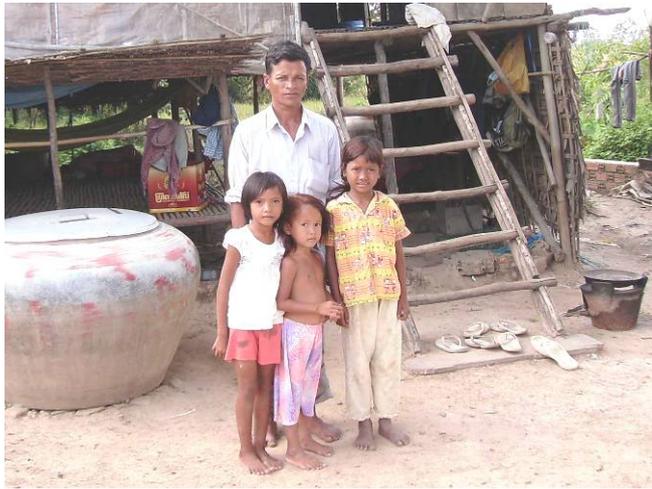


識字学校の様子

この識字学校は、親の要望に応える形で、学校No.9の校長が自らの意思で開いた学校です。当会では、今後、この識字学校に対してどのように支援を継続していくかを検討するため、学校と子どもたちの現状を把握するよう努めました。具体的には、校長や先生たちに話を聞くだけでなく、家庭訪問を行って、親御さんや子どもたちに対してもそれぞれインタビューをおこない、識字学校に期待することを尋ねました。まず、識字学校の位置づけですが、校長が率先して作った学校で、教育省の関与はなく、完全に独立した組織です。校長は、子どもたちが学校に来る限りは教え続けたいと考えています。先生たちも小学校6年生レベルまで教えるつもりです。一方で、子どもたちは識字学校が終わった後ももっと勉強したいと言い、公立学校に行って12年生（高校生レベル）まで行きたいと言っている子どももいます。校長や先生としては行かせてやりたい気持ちはあるのですが、ごみ拾いをして1日2ドル～5ドルを稼いで一家を養っているような家庭で、子どもを高校まで行かせるのは、経済的に不可能だと考えています。また、親へのインタビューでも同様の返事が聞かれ、貧しさのためにいつ引っ越さなければならないかも分からない状況で、読み書きを覚えさせるだけで充分と考えているようです。

～目次～

カンボジアだより	1
識字学校で	
教科書支援の状況	
スタッフ紹介	3
ボランティアさんの感想から	
グローバルフェスタ2011	4
A B K秋祭り	6
ニュースレター発送作業	8
会計報告	9
事務連絡	10



家庭訪問①



家庭訪問②

これらを踏まえまして、当会として今後どのように識字学校の支援を広げていくか、まだ方針は決定していませんが、今後の課題として現地の実情をより正確に把握した上で、できる限りの支援をしていきたいと考えています。

新年度に向けて教科書支援を準備しています

ルセイサンとワットハーの2校から始まった教科書支援を、昨年度は更に9校拡大しました。今後の支援に生かすために、教科書支援の成果の調査を昨年と同様に支援校に対して行いましたが、現地の生の声からは多くのよい反響があった一方、たとえば進級率の向上といった目に見える数字上の成果はあまり見受けられませんでした。よい反響としては昨年同様、「子どもが家でも宿題や予習をするようになった」、「先生が授業で要点だけを教えれば良いので授業の効率が上がった」などの声が聞かれました。進級率については、教科書プロジェクトをやっていた前年度に比べて、逆に低下した学校もいくつか見られました。それでも、ルセイサン小学校や学校No.4では、前年に比べて進級率の改善が見られ、その他の学校も教育省が指針として出している「落第率10%未満」という目標は達成しているとのことです。

落第する子どもは、家庭が貧しいことによる一家の夜逃げ・引越し、仕事の手伝いのため欠席するなど、教科書支援だけでは解決しようのない理由が影響していることが改めて浮き彫りとなりました。

このように教科書支援の効果に手ごたえを感じながらも、数字で効果を測定できない状況にあります。成果がしっかり目に見える形となることは、今後支援を拡大していくかどうかを判断する上でも重要なことなので、現地とコミュニケーションをしっかりと取り、効果測定の方法を引き続き検討していきたいと思えます。

新年度に関しましては、3,058人の対象生徒数に対して、3,418冊の教科書（購入費用3,166ドル）を追加で支援することを決定しました。以下の表に各学校への支援の内容をまとめてあります。

なお、ルセイサン小学校とワットハー小学校は現在必要数を集計中で、支援総額はこの分増加します。

また、教科書支援を通じて交流が始まった、学校No.3と学校No.4より、黒板の支援の要請を受け、これに関しても現在準備を進めています。（市井）

今年度支援する予定の教科書数（新年度は秋に始まります）

学年	学校ナンバー	No.1		No.2		No.3		No.4		No.5		No.6		No.7		No.8		No.9	
		教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数	教科書数	生徒数
1年	クメール語	19	90	20	65	50	134	13	68	6	101	12	45	22	35	25	38	20	40
	算数	17		18		48		15		6		12		24		29		20	
	社会・生物	18		18		42		14		9		12		20		32		20	
2年	クメール語	15	78	41	60	25	135	9	60	7	95	17	55	16	30	25	35	17	35
	算数	13		38		23		12		7		17		20		31		15	
	社会・生物	13		41		25		8		7		17		22		32		18	
3年	クメール語	12	73	26	55	32	102	9	59	8	87	22	52	11	23	30	30	15	30
	算数	10		20		33		10		8		22		10		27		12	
	社会・生物	11		25		27		10		8		22		10		27		13	
4年	クメール語	17	78	25	47	23	87	14	59	13	70	10	60	10	25	20	30	17	35
	算数	17		23		23		14		13		14		10		25		15	
	社会	15		24		23		14		13		15		10		23		18	
	生物	15		23		12		14		13		15		10		26		18	
5年	クメール語	12	71	3	28	26	88	30	58	30	60	30	50	15	25	18	28	15	35
	算数	12		3		23		30		30		30		15		18		15	
	社会	5		3		16		30		30		30		15		24		17	
	生物	5		0		29		30		30		30		15		23		18	
6年	クメール語	15	72	25	29	22	86	7	45	7	47	17	55	11	22	14	28	13	30
	算数	15		24		24		8		7		20		12		18		12	
	社会	15		26		31		10		7		22		7		19		10	
	生物	15		24		15		10		7		23		8		16		11	
合計		286	462	450	284	572	632	311	349	266	460	409	317	293	160	502	189	329	205
教科書数合計		3,418 冊																	
必要金額		3,166 ドル																	
生徒数合計		3,058 人																	

（ルセイサン小学校・ワットハー小学校は集計中・近日中に決定）

スタッフ紹介

本宮 慎吾（会社員）

私が当会のボランティアに初めて参加してから、来年の2月で丸3年になります。スタッフとしては昨年のお声掛け頂き、それから会に携わるようになりました。ボランティア活動を通じて国際交流できたらいいなというのが主な参加理由で、私の場合、特に学生時代そのようなことをしてこなかったものだから、社会人になってふと仕事以外で何かもっと得られるものはないか、と感じ始めていた矢先に当会に出会ったのです。「日韓の若者がお互い過去の歴史を乗り越えて、発展途上の国を助けていく」このコンセプトに裏打ちされた活動に常に感慨深いものを感じています。私は実際にカンボジアに行ったことはありませんが、そこで暮らす人々の生活状況はとても厳しいもので、教育問題に関しても然りでした。学校教育には当然教科書が必要であり、それを支援するのは大変素晴らしいことで、その中日韓で相互交流を深めながら活動していくのは、なおさら意味のあることです。



今後は会の支援内容をもっと勉強しまして、より深く携わっていければと思います。しかしながら自分自身のスキル及び人間性がまだまだ未熟ですので、その辺りは皆様の手をお借りしまして、今後の自己成長の糧としていきたいです。

ボランティアさんの感想から

日韓アジア基金の活動はたくさんのボランティアさんの力に支えられています。この秋の三つのイベントに参加された方々の声をお届けします。

グローバルフェスタ2011

価値ある2日間

堤 浩亮 (学生)

2011年3月11日、東日本で深刻な事態が起きてしまいました。それ以降、(災害) ボランティアという言葉がメディアなどでよく耳にするようになりました。そこでボランティアというものに多少興味を抱くようになり、インターネットで偶然見つけた東京ボランティア・市民活動センターの説明会に参加しました。

そしてNPO 法人日韓アジア基金・日本の話を聞き、カンボジアの現状(主に教育面)を知り、無能な自分でも何かお手伝いできることがあればと思い今回の活動に参加させていただきました。

グローバルフェスタでの仕事は主にパンフレットの配布と募金集めでした。ブース前を通る方たちが、予想以上に多くパンフレットを受け取ってくださったことに驚いています。またさらに驚いたことはパンフレットを受け取らなかった方の大半が無視せず、頭を下げるなどして断っていたことです。グローバルフェスタを訪問する方たちの温かみを肌で感じると同時に、街中などでティッシュ配りをしている人の前をスルーしてきたこれまでの自分を恥ずかしく思いました。

募金もたくさん集まったのでよかったです。募金をしてくださった方々の想いが詰まったお金が子どもたちの教科書へと変わるのかと思うと感慨深いです。

自由時間には折角の機会なのでいろいろなブースを回ってみました。想像以上に多くの団体があることに驚きました。また、『日比谷公園を「絆」の絵で埋め尽くそう!プロジェクト』で、東日本大震災には世界中から温かい支援の手が、また世界各地の子どもたちから何千もの絵画やメッセージが寄せられていました。女川などの児童たちは、がんばっている姿を伝えようと「私の10年後」を描いていました。絵一枚一枚がリアルで重みがあり、感動してしまいました。一日も早い復興を心よりお祈りします。

話は変わりますが、今回の活動には学生、社会人などさまざまなバックグラウンドを持った方たちが参加していて、いろいろな方のお話が聞けてとても新鮮でした。特に社会人の方のお話は勉強になりました。より多くの人のお話を聞き、さまざまな視点から物事を見ることの大切さを改めて確認することもできました。皆様にお会いできたことに本当に感謝しています。

今回の2日間の経験は自分にとってお金や物には代えることのできない大きな財産です。貴重な体験ができてよかったと心から思います。また、今回の体験

をできるだけ多くの人に伝えていきたいです。一人でも多くのカンボジアの子どもに教科書が届き、しっかりと教育が受けられるようになる日が一日も早く来ることを心より願います。そしてカンボジアの子どもたちに学ぶことの楽しさを知っていただけたら幸いです。

日韓アジア基金のTシャツを着て

井上 明菜(会社員)

「カンボジアに行ったことはあるんですか?」「クメール語読めますか?」「韓国に興味があるとか?」これらは私が今回ボランティアとして参加した2日間でブースに立ち寄ってくれた方々から尋ねられた質問です。答えは「NO」です。実際に「いえいえ、全然そんなことないですよ〜」と答えると、みなさん、じゃあ何故?という表情をされていました。ではこうして無事2日間のボランティアを終えた今、改めて自分がカンボジアや韓国に興味を持つようになったかといえば、こちらも「NO」という答えになるかと思うのです。

私が今回のボランティアに参加したきっかけは知人からの紹介ですが、喜んでお手伝いしたいと思った理由は「2つの国が協力して第3国をサポートし、その活動を通じてお互いの仲も深めていく」というコンセプトに共感したからにほかなりません。日韓アジア基金の場合、それが日本・韓国・カンボジアとなるわけですが、こうしたトライアングルが見える活動をしている団体はとても珍しく、またこれこそ「グローバルフェスタ」の名にふさわしいと思ったからこそ、当団体のボランティアの立場でフェスタに参加したのです。よって先の質問に戻ると、今回の活動を終えて、私は「カンボジア」「韓国」といった1国1国に対する興味よりも、違う文化のもとで暮らす人間たちの相互理解を深めることの重要性によりいっそう興味を抱くようになりました。

次に2日間のボランティア詳細につき感じたことを2点紹介します。まずスタッフやボランティアはもちろん、ブースに立ち寄ってお話を聞いてくれたお客さんなど、熱心な学生の方と多く知り合い、一緒に活動して、私自身、身が引き締まる思いでした。学生のうちから学校やサークル以外の団体のボランティア活動に興味をもち、そして色々な年齢・立場の人間が集まるこうしたコミュニティのなかに実際に飛び込んでいくことは、最初はかなり勇気がいりますが、少しでも興味があるならやってほしいです。自分に何ができ、また何をすべきかといったことが見えてきて今後の人生のヒントになるのではないのでしょうか。今年唯一の社会人ボランティアとしてそのように思いました。

もう1点は、他団体のスタッフからもとてもよく声を掛けて頂いたということです。正面は「日韓アジア基金」、しかし背中には「カンボジアの子どもに教育を」と書かれたグリーンのTシャツの存在感は抜群でした。グローバルフェスタにはカンボジアの支援をテーマにした団体が他にもありましたが、Tシャツを着



た私がふらりと立ち寄ると皆さんからその由来を尋ねられ、説明すると非常に興味深く聞いてくださいました。日韓アジア基金ではブースでの募金活動時、「65円の募金にご協力お願いします」と呼びかけます。前を通りがかる人に「どうして65円なんだろう？」という興味を持ってもらうことから全ては始まるのです。

(65円は、カンボジアの教科書1冊の値段です。)それと同様のことがこのグリーンのTシャツにも当てはまり、大きな役割を担っているのだと思うと、私はそれを着て会場内を巡るのが楽しくて仕方なかったのです。

アジア文化会館 秋祭り

「熱いので気をつけてください」のひとことで空気が気持ちよくなる

笠原 祐子 (会社員)

アジア文化会館秋祭りに、今年も参加させて頂きました。2回目の参加です。昨年はボランティアへの参加が初めてということもあり、この活動がとても新鮮に感じられ次回も参加してみたいと思いました。この活動の中で、普段出会うことのできない人やものに出会えたことも、自分自身にとってよい刺激でした。

当日は生憎の雨で屋内での開催となり、どのようになるのか想像がつかず、少し不安な気持ちで会場へ行きました。2回目の参加者ということもあり、ブース内に置く日韓アジア基金の国内活動のパネル作成作業を率先してさせて頂くことになりました。この作業は今年が初めてだったのですが、みなさんのアイデアと助けを借り、いいものを作ることができました。普段はこのようなことを職場でしていないので、協力して何かを作ることの楽しさが、新鮮に感じられました。

雨天にも関わらずたくさんの方が来場されました。去年のように道行く人に気軽に声をかけることが難しかったのですが、それでも興味を持って下さる方がたくさんいらっしゃいました。中でお茶を飲みたい方もいらっしゃったので、いすを並べて休んでいただくこともできました。スタッフ全員でお茶作り、呼びかけ、活動の紹介に取り組みました。また、昨年同様、お盆にお茶を載せ、募金箱を首にかけ、外回りに行くスタッフの協力もあり、ブースにいる留学生や足を運んで頂けていない方にもお茶をお配りすることができ、募金もして頂くことができました。

今回のボランティアで感じたことは、自分から行動することの大切さです。お茶を入れること一つでも、「熱いので気をつけて下さい」という一言がその人の耳に届くことで、その人との間の空気がとても気持ちよくなること。それはその瞬間だけでなく、こうしてそのときを思い出している今、尚更そう思えるのです。

きっとこのような時間を自分たちの小さな心がけで作出し、積み重ねて行くことは、ボランティアで得られる何より大切なものだと思います。

終わって駅に向かうときは思った以上の疲れを感じました。屋外の活動だった去年ほど動いていないので不思議だったのですが、今年は去年よりずっと人と接する時間が長かったことに気付きました。でも、その疲れはとても気持ちよく感じられ、うれしい気持ちで会場を後にしました。

楽しかった交流

佐々木 望（学生）

はじめに、このたびの国内外での災害により被災された皆様、被災地にご縁のある皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。今回 2011 年 10 月 22 日(土)の第 10 回 ABK 秋祭り(以降 ABK フェスタ)に参加させて頂きました。ボランティア参加は 3 回目です。

当日に行ったこと。1)ブースの出展の準備 2)ブースの運営 韓国茶を無料で提供しながら、日韓アジア基金・日本の活動の広報・宣伝・募金を行う。またパンフレットを配布する。

活動結果

募金額、予想の最少額は上回る パンフレット配布 目標の配布数の 50 部配布 韓国茶(6 瓶用意)5 瓶使用 雨や屋内という、前年に比べると悪条件の割には良くできた方の内容のようでした。

雨天のために館内でのブースの出展になり、前年に比べると作業内容の多くはなかったみたいですが、時間的な余裕を感じることができたせいか、気持ちに多少は余裕を持って準備を終了し、来場者を迎えることができたと思います。

開始後、韓国茶を提供する際には、皆で役割を分担し合いながら、丁寧な対応を行っていたと思います。屋内の奥にある教室にブースを出展し、始めから教室の外側で呼びかけを行っていましたが、雨天の影響はあり、来場者数は全体的に前年より少なかったそうですが、さらに場所の影響もあってか、来場者が屋内の奥の方まで進んでいないような状況でした。それに対しては、トレイを用意してお茶をそのトレイに置いて、パンフレットと募金箱を携帯しながら外を回る対策をとりました。私もトレイを持って外を回り、少しは韓国茶の提供、募金を頂くことができました。この対策は効果があり、最後に結果を振り返った際に、今回のような条件でも一定の評価を得ることができていました。

休憩時間中に各ブースを訪問した際には各国の手製の料理を購入し、食べることができました。来場者数が少なめだったおかげのようで、前年の例では、開始後、すぐに料理が売り切れたブースがあったようでした。飲み物含め、4、5カ国の料理を頂きましたが、美味しかったです。地下では歌手がギターを持ちながら歌を歌っている場面があり、いろいろな催し物があったようでした。

終了時間になると、すみやかに片づけを行い、他に手伝えることがないか確認しました。その後、主催者側の、参加スタッフへの心遣いや労をねぎらう配慮から地下食堂で打ち上げがあり、料理や飲み物を頂き、皆で交流をはかりながら、ABK フェスタを終了しました。

日韓アジア基金・日本について、私にとっては韓国、アジアはキーワードになるかと思います。まず韓国については私の出身は九州の福岡県であり、地理的位置関係だけでなく、文化や意識的に身近に感じる部分があります。個人で旅行で韓国に行ったことがあります。アジアについては、東南アジアになりますがタイ王国のバンコク市内に 10 歳から 15 歳の間の 5 年間程、九州から移り住み、当時日本人学校に通っていたので、外国の文化や習慣に触れる機会はある、感覚的に共感や親しみがある部分がある方ではないかと思います。

これらを踏まえながら、国際協力や支援という観点から、日韓アジア基金・日本のボランティアの一員としてカンボジアや財団法人アジア学生文化協会(ABK)を中心に貢献したいという思いで参加させて頂きました。休憩時間中には他の団体のお手伝いやブースを訪問し、その場でお話や手製の料理を頂いたり購入できたりで交流をはかれたことがあり楽しいものでした。来場者に限らず、皆で交流をはかりながら楽しんでいる印象でした。

幅広い年齢層におすすりできる日韓アジア基金・日本の活動ですが、特に日本の学生の方々にはボランティアのような、地道な活動を通じてでも、自身の将来や幸福感を見つける、または築くためのきっかけや手助けになればとは思っています。私についても同様ですが現在、独身の身で進路や仕事を検討している状況で、例えば上述の内容に加え、家族や大切な人たちに貢献できる何かにつながればと考え、今後も活動に参加・貢献できればと思っています。

最後になりますが、今回は私のスケジュールの調整の都合上で前日のボランティア参加のご相談になりましたが、柔軟に対応して頂いたことや当日の朝の電車遅延による遅刻は誠に申し訳ないことでしたが、皆様に暖かく迎えて頂き、全体的な対応にも感謝しております。ありがとうございます。

ニュースレター発送作業

支援のありがたみ



間性に惹かれているからです。ニュースレター発送業務は、恒例の自己紹介から始まりました。また、「おすすりの本、映画」について、私は、株式会社マザーハウス代表取締役である山口絵理子さんの『裸でも生きる』という本を紹介しました。この本を選んだのは、バングラディッシュというアジアの中でも特に貧しい国で、カバンを作り、立派なブランドにしようという山口さんの熱意、行動力に大変影響を受けているからです。

10時頃作業は本格的にスタートしました。和気藹々というよりは、みなさん一人一人が黙々と作業をされている姿がとても印象的でした。正午頃になると、ほとんどの作業も終わり、袋詰めに取り掛かることができました。袋詰めをし、封筒を仕分けしている時に気付いたのが、全国のたくさんの方々が支援してくださっているということでした。やはり支援してくださる方々がいるからこそ、カンボジアに支援ができるのだなあと改めて感じ、今まで以上に支援してくださる方々への感謝の思いが強くなりました。

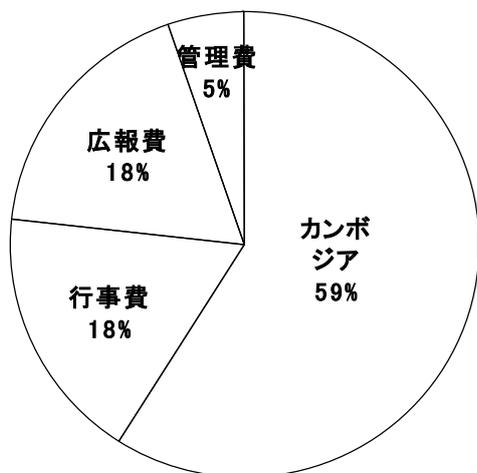
新井 利延（学生）

私は今回で、年賀状の宛名書き、文京国際フェスタに次いで、3回目の参加となりました。続けて参加させていただいている理由は、自分が小さなことからでも人の役に立ちたいという思いもありますが、その中でもこの「日韓アジア基金」を選んでいるのは、スタッフの方々の人間性に惹かれているからです。

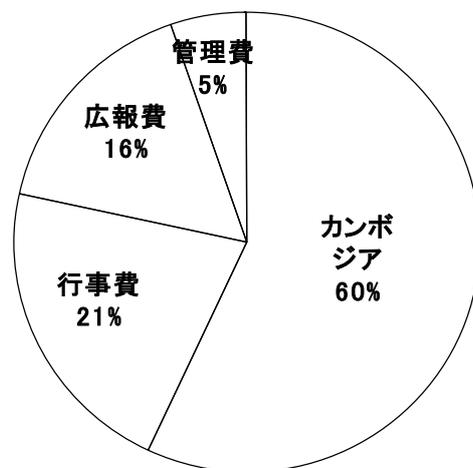
お金の使い途を中心にした会計報告

日本

平成 22 年度支出
(平成 22 年 7 月～23 年 6 月)
総額 104 万円



平成 23 年度予算
(平成 23 年 7 月～24 年 6 月)
総額 112 万円

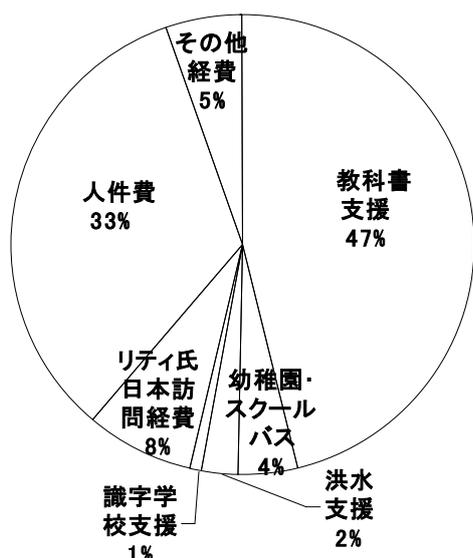


- ・カンボジアの費目別内訳は下記に示します。
- ・行事費はビビンの会の開催費用で、会費と相殺になっています。
- ・広報費は、ニュースレター発行費用が 60%、ブース出展費が 25%を占めます。
- ・支出に占める管理費の割合が低いのは、国内スタッフが全員無給ボランティアであり、交通費等の経費も全額個人負担であること、事務所家賃がアジア文化会館のご好意で無償である等、当会独特の事情によります。

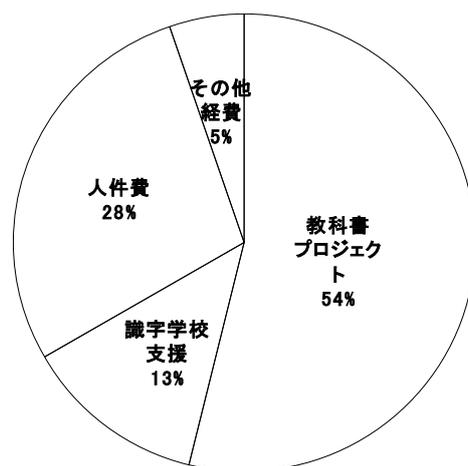
- ・カンボジアの費目別内訳は下記に示します。
- ・行事費はビビンの会の開催費用で、年間 4 回の計画です。
- ・広報費は前年並みと考えています。

カンボジア

平成 22 年度支出
総額 5,850 ドル



平成 23 年度予算
総額 11,200 ドル



- ・教科書支援は 8 校に 5,259 冊、4,415 ドルでした。
- ・スクールバスは費用対効果の観点から 2010 年 8 月で運行を中止しました。
- ・洪水支援は、幸いに当初考えたより被害が少なく、費用は少額で済みました。
- ・識字学校支援は 2011 年 6 月から開始したので、当期の支出は少額でした。
- ・人件費はリテイ氏の給与です。
- ・その他経費は自家用車費が大半を占めます。

- ・教科書支援は 11 校で 6,000 ドルを予定しています。
- ・識字学校支援は通年実施し 1,440 ドルの予定です。
- ・人件費・その他経費は前期実績並みと考えています。

平成 22 年度年次総会終了報告

表題の件、去る 9 月 24 日に無事終了しました。

ビビンの会を開催します

2011 年 12 月 23 日 祝・(金) 14 時から 17 時頃

場所 東京千石 アジア文化会館

会費 500 円 (内 300 円はカンボジアでの教科書支援に充てる寄付です)

終了後、懇親会を予定しております。

お問い合わせ、お申し込みは、この頁の下の「お問い合わせ先」まで。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

9 月 4 日 ニュースレター38号 発送作業

跡部 政代・雨間 由起子・新井 利延・安藤 圭亮・小笠原 久美恵・金子 真由・北村 宏大・島村 航也・堤 浩亮・村瀬 祐貴・山本 芽実・与本 悦子

10 月 1・2 日 グローバルフェスタ・ブース要員

井上 明菜・小宮 友輔・佐久間 愛弓・鈴木 亜衣・堤 浩亮・前沢 咲・築田 沙紀・山田 智未

10 月 22 日 アジア文化会館秋祭り・ブース要員

岡部 亮也・笠原 祐子・小宮 友輔・佐々木 望・堤 浩亮・常田 望・橋本 美里・林 真優子・平野 誠・松原 大悟

2011年 9 月 4 日～11 月 16 日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

荒川 雄彦	江本 哲也	栗田 瑞枝	波多野淑子	松本 昌幸
井内 和夫	大塚 紀子	田野辺隆男	藤井 幸子	矢崎 芽生
乾 寿夫	加来 明子	佃 吉一	藤井 昌子	山本トシミ
岩見 豊子	片岡 彩子	西川由利子	堀内 和子	吉田 美夏子

鹿島建設都立大学OB会

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153
口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
 - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
E-メール: ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさって下さい。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也